

シリーズ環境問題⑩・・・「ESD」今必要な新しい教育概念！

ESDとは、持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) の頭文字を取ったものです。

2014年は「国連持続可能な開発のための教育の10年」(2005年から2014年)の最終年にあたり、11月には名古屋市で「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が開催されます。(この会議は、2002年に日本政府が提案し国連総会で採択されたものです。)

ESDは、国際協力や貧困、社会福祉、まちづくり、ジェンダーなど広範な分野を対象とします。地球規模の環境破壊や、エネルギーや水等、資源の保全が問題とされている現代において、私たち人間が現在の生活レベルを維持しつつ、将来世代の人々にもより質の高い生活をもたらすことができる状態での開発を目指すことが重要な課題となっています。

このため、個人個人のレベルで地球上の資源の有限性を認識するとともに、自らの考えを持って、新しい社会秩序を作り上げていく、地球的な視野を持つ市民を育成するための教育であるESDに期待が寄せられています。

「持続可能な開発」を進めていくために、学校教育、学校外教育を問わず、国際機関、各国政府、NGO、企業等あらゆる主体間で連携を図りながら、教育・啓発活動を推進する必要があります。当然、教育の範囲も、環境、福祉、平和、開発、ジェンダー、子どもの人権教育、国際理解教育、貧困撲滅、識字、エイズ、紛争防止教育など多岐にわたります(文科省HPより)。

ESDの実施にあたっては、学校の教員への教育が重要であり、まずは先生たちにESDについて学んでもらうことが必要です。文部科学省では、関係各省、NGO、企業等と連携しつつ、社会・文化、環境、経済の分野に注目し、人権教育、異文化理解、男女共同参画社会の構築、環境教育の推進に積極的に力を入れているとしています。

ESDが実施される場合は学校などの教育機関だけでなく、地域や社会全体でも取り組むべきものですが、日本で行われてきた環境教育は、自然環境などに関するものが主流で、学校での取り組みも本格化し始めたばかりです。新しい概念であるESDが普及することで、持続可能性や、環境と開発の関係、公正な社会のあり方などに関する市民の認識が深まることが期待されています。



持続可能な開発とは、将来世代のニーズを満たすことができる地球環境や社会環境を損なうことなく、現代世代のニーズを満たすような社会づくりのことを意味しています。このため、すべての人が健康で文化的な生活を営むための取組が必要であり、貧困を克服し、保健衛生を確保し、質の高い教育を確保することなどが必須条件です。これらの取組は、性別、人種等により差別されず、公平に向上するよう取り組まなければなりません。

また、これらの取組を資源の有限性、環境容量(自然界が水循環・生物循環によって浄化できる汚染の許容量等のこと)の制約、自然の回復力などを意識した節度あるものとし、将来世代へと持続する社会づくりとしなければなりません。さらに、戦争や紛争は、難民を生み、環境を破壊するため、平和への取組が必要です。

以上を踏まえると、世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境の保全と回復、天然資源の保全、公正で平和な社会などが持続可能性の基礎となっており、環境の保全、経済の開発、社会の発展を「調和」の下に進めていくことが持続可能な開発です。

このような持続可能な開発は、私たち一人ひとりが、日常生活や経済活動の場で、意識し、行動しなければ実現しません。まず、私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要であり、そのための教育がESDなのです。

[参照・引用:わが国におけるESD実施計画]



市政についてや環境問題 これってな～に? わかりやすく教えて? にお答えします!

〒350-8601 川越市元町1-3-1 川越市役所6F 無所属議員控え室
TEL 070-6998-3687 FAX 049-227-3810 E-mail mail@kawaguchi-keisuke.net